

## エリアコーディネーターとの協働を意識した自らの実践活動

### 協働に係る実践

地域の学校園所に在籍する聴覚障害児童・生徒の支援に関しては、まず学校園所や市町教委・福祉課・病院・関係諸機関からの相談が始まる場合が多く、エリアコーディネーターとの連携は、後回しになる現状がある。

地域の人々に、聴覚障害の特性や聴覚障害児童生徒がかかえている困り感を知ってもらうところから始まる。

そこで...

学校園の先生方（コーディネーターの先生方を中心に）や市町の教委・福祉課・保健師などを対象とした聴覚障害理解啓発研修会や講演会・言語聴覚士とのケース会議等を実施。

地域の特別支援教育に関わる方々に、程度にかかわらず聴覚障害のある児童生徒への支援や合理的配慮の必要性を理解してもらう。

各市町のコーディネーターや教育委員会とのつながりができる。各エリアのネットワーク会議でのつながりができる。

### 実践の成果

- ・聴覚障害の児童生徒についての相談が増える。
- ・支援体制や合理的配慮に関する相談へと繋がるケースが増える。
- ・今まで全く本校と繋がっていなかった難聴高校生や他の障害種の特別支援学校に在籍する難聴児童生徒と繋がったケースがある。
- ・地域の学校園のコーディネーターの先生方や教育委員会の特別支援教育担当者と連携しやすくなる。

### 課題

- ・各校のコーディネーターから校内全体の支援体制に繋がらないケースも多い。
- ・学校と市町教委の難聴児童生徒に対する障害認識のとらえ方に格差がある場合がある。

エリアコーディネーターとの連携の必要性

### 実践のなかで、自分が学んだと思うこと。

#### ① 教育相談・通級児童生徒の聴力測定を通じて

聴能担当として、教育相談・通級児童生徒と関わってきた。実際に聴力を測定し、児童生徒の聞こえの実態を知ることができることも、保護者や担任の先生などとも連携を図ることができた。校内でもコーディネーターと聴能担当が連携を図ることによって、子どもたちの実態をより把握することができた。

#### ② 医療との連携を通じて

校内の幼児児童生徒、また教育相談・通級指導に來ている幼児児童生徒の様子や医療との関わりを共通理解するために、医療との連絡会を行った。医療側の情報と学校の様子を共有し、よりよい支援を行うために重要な会であると感じた。この連絡会がなければ分からない情報がいくつもあった。

### 実践活動の今後に向けて。

#### まず、

##### ① 教育相談・通級児童生徒について理解していく

聴能担当として、教育相談・通級児童生徒の聞こえの実態を知ることができた。この実態を子どもたちに関係のある方々に伝えていき、子どもの今の現状と困っている内容を誰もが理解できるようにする。

#### さらに、

##### ② 研修会や講演会、ケース会議等の設定

聴覚障害理解啓発研修会や講演会、関係機関と連携する機会等を設定することで、子どもたちの聞こえの様子や普段の生活の様子について知る機会を増やしていきたい。

### 地域支援づくりへの提案

#### 地域支援の現状

聴覚障害の特性を理解して頂くことで、職員の難聴児童生徒へのまなざしがやさしくなり、支援体制を全校一丸となって整えようとする動きが出てきた学校がある中、研修もままならない学校もあり、格差が大きい。

#### 地域支援のあり方

障害の特性を知り、その障害が起因する困り感に気づいて支援・配慮してもらうこと

#### 障害特性に対する理解啓発が地域支援の要

障害特性の見取りや指導・支援方法についての学校園もが理解啓発の場をもつことが必要

エリアコーディネーターとの連携で、各学校園とも繋がりがやすくなり、校内支援体制への関わりがしやすくなる。